最美的期待～学为人师，行为世范～

外国語学部　中国語学科　3年　小椋 洸

北京師範大学

私は、2019年7月28日から8月26日の1ヶ月間、中国の首都、北京市にある北京師範大学に語学研修に行ってきた。

私は、初めは中国に偏見のイメージを持っていた。中国人は嘘をつく、ルールを守らない、自分勝手などのイメージだった。しかし、高校3年の夏にオープンキャンパスで現在私が所属しているゼミの先生である孫教授のお話に感銘を受けて、中国の文化について専門的に学びたいと思い中国語学科に入学をした。入学後、中国の文化をより理解するためにはやはり言語を伸ばす必要があると思い、今回の研修に参加することを決めた。

北京師範大学の東門

私が1ヶ月間、北京で感じたこと印象に残ったことを3つ書こうと思う。

北京語言大学での交流会

1つ目、私は、様々な中国人と交流した。平塚キャンパスの廣田先生に紹介してもらい、北京語言大学で行われた日中の交流会に参加した。私はカタコトの中国語で話したが、中国人から返ってきた言葉はほとんど日本語だった。しかもかなり流暢な日本語で話していた。私はどれくらい日本語を勉強したのか聞いたところ、驚きの回答が返ってきた。「3ヶ月だよ！」と。そこで勉強の仕方を聞いてみると、日本のドラマやアニメを見て勉強し

北京語言大学の門

ていると答えた中国人がほとんどだった。また交流会に積極的に参加しアウトプットをするといいと語っていた。

他に私は中国語の疑問を問いかけてみた。中国語には多くの方言、訛りが存在している。私が行った北京では「r化」を頻繁に聞く。なぜ「r化」するのかを聞いてみると「聞き心地がいい」「特に意識していない」との意見があった。聞くところによると年齢が高い人ほど訛りがきついらしく、比較的若い人はそれほどきつくないと言っていた。これは日本でも同じと思ったが、中国の方が日本より差があるらしい。また「北方人」と「南方人」の発音の違いなどについても語り合った。他にも脏话や、北京の名所、北京菜などを教えてもらい、有意義な交流会となった。その後も微信を交換し、連絡を取っている。

交流会で出会った中国人の言語に対する意識が高く、私自身見習うべきだと感じた。

北京語言大学での交流会

QR決済の利便性

2つ目、中国のおけるキャッシュレス化（紙幣を使わず決済すること）が進んでいることに私は驚いた。小規模のコンビニで支払いの時、私は細かいお金を持っていなかったため、100元を出したところ店員さんにお釣りがないと言われたことがある。日本ではまずありえない現象だと思った。また、お釣りが渡せないということは、やはり中国人の決済方法はQR決済が主だということを感じた。

私は1ヶ月の滞在であったが、幸運なことに大学内にある广发银行で口座を作ることができた。なので、私は滞在中QR決済（微信支付、支付宝）を使用することができた。実際にQR決済を使用してまず思ったことは、とにかく便利であるということ。そして、なかったら不便であるということ。私はトイレに行った時、トイレットペーパーの自販機を見つけた。しかし、お金を入れるところが見つからなかった。あるのはバーコードのみだった。このようにQR決済のみの自動販売機が多い。

QR決済が普及しているため中国では現金の信頼が低いのか、現金決済をしようとすると店員さんの表情があからさまに嫌そうな顔になる。それは中国らしくて今となってはいい思い出になった。

北京師範大学のトイレにあった
トイレットペーパーの自販機

食事の違い

3つ目、私は中国の人とご飯を食べに行く機会が何回かあり、日本と中国の食事の仕方の違いを感じた。まず驚いたのが、「打包」である。日本で食べきれなかったご飯を家に持ち帰る文化はほぼないが、中国では食べ残しの持ち帰りは一般的である。中国人は最初に大量に注文する。日本の場合、食べきったら追加で注文する。なので中国で最初に注文した時、店員さんに「それじゃ少ないよ！」と言われたり、メニュー表を持っていかれるケースが多数あった。

次に驚いたのが中国人の乾杯の仕方だ。大人数で食事に行くと「圆桌子」といって丸テーブルが主だ。そのため乾杯の際、対角の人とグラスを当てることができないため、グラスをテーブルに当てて乾杯をしていた。また日本では乾杯は最初だけの行為だが、中国では

食事の様子

何回も乾杯を行なっていた。これは中国人と食事に行かないと気づくことができなかったため、いい経験をしたと思う。

また中国人は「请客（ご飯をご馳走する）」の文化がある。日本では割り勘が一般的だ。中国人に聞くところお互いお金を払おうとして喧嘩するパターンもあるそうだ。しかし若い世代の中国人は割り勘のことを「AA制」といい、私は「AA制」という言葉を耳にすることが多かった。

食事という観点からしても日本と中国の文化の違いを感じることができてとても面白いと感じた。

最後に

中国について本格的に学び始めておよそ2年半がたった。実際に中国に行き、中国人と交流をした事によって、文化や風習を理解することができた。それによって最初に懐いていた中国に対しての偏見は徐々になくなっていった。

またこの研修を通して、自分自身の中国語レベルの低さを痛感した。言いたいことがあってもなかなかうまく表現できない、聞き取れない、会話できない。勉強不足を感じた。この経験を生かし、これからも中国語ならびに中国文化について勉学を日々精進していこうと思う。

先生とクラスメート